

村井不二子
(昭和女大)

【目的】 アイヌ民族服飾について、木綿衣を中心にその復元的調査研究を1988年から1990年にわたって行い、その成果は既に発表してきた。

今回は山丹服・蝦夷錦における文様表現について報告する。調査対象は北海道開拓記念館収蔵資料である。衣服を通して北海道と北方大陸の交流の歴史を探り、保存・修復、文化的位置付けを計り、更にその製作、流動について考察を進めた。なお、本研究(グループ)は1993年から1995年にわたり文部省科学研究費を交付された。

【方法】 実物26点を実見し、計測し、写真撮影を加えた。中国文献による史的・地域的特徴を考察した。

【結果】 文様の位置は中央に対して左右対称が通例である。官服の胸と背の大龍(座龍)は別として、凡ねその原則に従っている。段ぎれの場合もこれに準じていて、更に上下対称、逆対称、回転対称などの変化はあるが、どれも均斉のとれた美しさがある。正確な左右対称でないフリーなデザインであっても、大きさとボリュームの組み合わせによる全体配置が見事であり、視覚的な左右対称を生み出している。

官服の中心は龍文である。龍文に共通することは他文様に比べて表現方法に変化があり、技法が特にいいのである。特別な技法や他より美しい金糸を用いて際立たせている。胴は鱗模様で、胴のくねりの向きに合わせて鱗模様もそれに沿って向きを変えてゆく。どんな粗い織りや刺繍でもすべてこのように表されている。その完成度は龍文について考えるときの重要なポイントである。